

COVID-19 の現状と医療的対応，
ウィズコロナのフレイル対策角田 徹¹ 公益社団法人東京都医師会副会長

KEY WORDS

COVID-19 感染状況／COVID-19 感染形態／かかりつけ医対応の目安／フレイル対策／
リスク別感染予防

抄 録

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者数、死者数は世界、日本ともに急増している。その特徴は、感染力はそれほど強くないこと、発症前が感染力のピーク、飛沫感染が主で三密にて感染が成立、約30%は無症状、発症後も約80%は軽症、高齢なほど重症化率は高いである。発症前に他者への感染力が最大となり、標準的な感染予防策が必須である。

高齢者では、過度な自粛や外出抑制によるフレイルの進行や生活習慣病の悪化も多い。日常生活・社会活動を健全に営むため、マスク着用、三密状態の回避、確実に頻回の手洗い、換気・消毒などを行いつつ、不適切な個人的対応や行動にならないことが重要だ。具体的な取り組みとして、高齢者・家族へ正しい知識の啓発、工夫をしながら地域活動の再開、新たなコミュニケーションツールの導入、新たなサービス提供体制、画一的でないリスク別の感染予防がある。

感染症対応に柔軟性と継続性をもった強靱な社会の構築と、ヘルスリテラシーを有する国民の増加を目指し、各学会と各医療関係団体の活動・協働はきわめて重要である。

I COVID-19 の現状と医療的対応

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界の感染者数は、2020年11月上旬に5,000万人を超え（2021年1月下旬では1億人を超える）、死者数も125万人（同215万人）を数える。世界の三大感染症である結核・エイズ・マラリアの感染者数・死亡者数を超えている。地域的には、欧州、南北アメリカ大陸での急激な感染拡大が収まらない状況である（図1、図2）。

日本における感染状況でも、第3波が疑われる感染者の増加傾向がみられ、2020年10月29日には国内の累計感染者数が10万人を超え、11月14日には1日の感染者数が1,700人を超えている。この時点での地域別の感染状況は、首都圏とともに北海道での感染者の増加が際立っている。

東京都においても、第2波の感染状況が収まりきらないうちに感染者の増加段階に入っており、今後の深刻な状況を嚴重に注意する必要がある（図3）。

濃厚接触者における感染経路では、同居（家族）、職場、施設、会食の順であり、会食の場での感染が増加傾向にある（図4）。また、第1波からの発症日別

¹ Tohru Kakuta
〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台2-5

E-mail : kakutatohru@gmail.com
[COI] 本件に関する開示すべきCOIはありません